金子総務大臣 来町
町地域おこし協力隊と車座対話

12月４、５日、金子恭之総務大臣が、国民の声を聞き政策に反映する車座対話第３弾として来道しました。札幌、岩見沢に続き５日、白老町入り。町協力隊は４人が出席しました。金子大臣は気さくな雰囲気で司会進行も務めました。

大臣　メモを取りながら熱心に耳傾け質問

「協力隊を知ってもらうアイデアはありませんか」「役場の支援はどうですか」「コロナ禍の活動への影響はありますか」「女性ならではという活動の問題はありますか」「地域へのとけこみはどうやって」「任期後の活動のお考えは」と質問をぶつけ、隊員たちの回答にメモを取りながらうなずいていました。

協力隊　活動紹介や日頃の思い披露

金子大臣は「皆さんの頑張りに感謝します。協力隊への期待はどんどん大きくなっています。外からのフレッシュな気持ちで、気づかなかった（地域活性化への）ヒントを示していただきたい。総務省として隊員への応援を全力で続けたい」と話していました。この日は渡辺孝一総務大臣政務官も出席し、協力隊の前には町内郵便局長と役場職員との車座対話を行い、ウポポイの視察を終え帰途に就きました。

地域おこし協力隊通信

藤田姫夏さん（24）
森林ガイド担当（３年目）

地域おこし協力隊として生活し始め、白老という町の名前すら知らなかった頃には想像もできないような経験をしています。父の助言を受けながら開発、商品化したエゾシカ肉を使った中華まん「ユク饅」を作るために春には一年分のタケノコ採取、大好きなポロトの森ポロト湖で森歩き、イタヤカエデの樹液採取、ＳＵＰ（ボードに立ってパドルをこぐ水上スポーツ）でいろんなお客さんに出会い、警察官の対応におびえながら狩猟免許を取り、納車してすぐのジムニーで鹿にぶつかり、天使のような子猫を拾ったり、うまくいかない日は海が見える温泉で癒されて、外を歩けば「ひめいろ～んな人が「ひめちゃん」って声をかけてくれて、ああ～白老って幸せだなってにやけています。

白老の自然の魅力を発信。気が付くとにやにや

活動の中で、知床ウトロ育ちの私が大好きなヒグマの調査が癖になりました。コンパスと地図をもって山を歩きヒグマの痕跡を見つけたり、背こすりの木から毛を採取したり、フンを手に取り匂いを嗅いでにやにやしたり。気が付くとたくさんの想い出と優しくて面白い人たちに囲まれて幸せな白老生活を送っています。

東京2020オリンピックの感動を再び

聖火リレートーチとランナーユニフォームを展示
１月下旬まで　JR白老駅構内観光PRブース

町はコロナ禍の町民、観光客の皆さんに元気を！と企画しました。お披露目にはランナーの山道ヒビキさん（32）、山本宏さん（62）と、戸田安彦町長が出席。白老での点火セレモニーの映像も流され、降り立った乗客らが「あ、あれ何？」と関心を寄せていました。白老アイヌ協会の協力で行われたパラリンピック採火式で使用した「聖火皿」「ランタン」も、駅北観光インフォメーションセンターに飾られています。